

「災害に強いまちづくり宮城モデル」の構築

本県土木部では、宮城県震災復興計画の土木建築行政分野の部門別計画である宮城県社会資本再生・復興計画の基本理念として、「次世代に豊かさを引き継ぐことのできる持続可能な宮城の県土づくり」を掲げ、災害に対し粘り強い県土構造へ転換を図るほか、高台移転、職住分離、多重防御による大津波対策など、沿岸防災の観点から被災教訓を活かした「災害に強いまちづくり宮城モデルの構築」に全力で取り組んでいます。

震災伝承の必要性

防潮堤などのハード整備だけでは

津波被害を防ぐことはできない

東日本大震災クラスの津波は防潮堤を超えてしまう

津波が襲来したときに確実に避難行動を行うためには

継続的な震災伝承の取り組みにより
風化防止と防災意識啓発
を行うことが不可欠



↑「災害に強いまちづくり宮城モデル」の動画はこちら
スマートフォン等で上記のQRコードを読み取ってご覧ください。

3.11 伝承・減災プロジェクトの位置付け

県政運営の基本指針 新・宮城の将来ビジョン 2021~2030

土木・建築行政分野における部門別計画 宮城県土木・建築行政推進計画 2021~2030

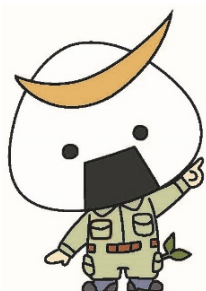
3.11 **ながくひろくつなぐ** 伝承・減災プロジェクト

「災害に強いまちづくり宮城モデルの構築」

の意味を正確に伝え、防潮堤などのハード整備に過度に依存しない、避難の重要性を伝えていく

「災害に強いまちづくり宮城モデル」とは

高台移転、職住分離、多重防御による大津波対策など、沿岸防災の観点から震災教訓を活かした災害に強いまちづくりを進めること



- 災害に上限はない
- レベル1、レベル2津波と「減災」への転換
- 津波が超えることが前提の防潮堤とまちづくり
- 防潮堤と住民の高い防災意識がセットになって「災害に強いまちづくり宮城モデル」が完成する

